



JR 線「石川町駅」元町口 → 石川町駅前郵便局 → 大丸谷坂 → 山手イタリア山庭園 → 外交官の家、ブラフ 18 番館 → 山手本通り → カトリック山手教会 → フェリス女学院 → 元町公園 → ベリック・ホール、エリスマン邸、山手 234 番館 → 山手外国人墓地 → 港の見える丘公園 → 横浜市イギリス館、山手 111 番館 → みなとみらい線「元町・中華街駅」アメリカ山公園口

※横浜山手西洋館の開館時間や休館日等については、各館のホームページをご覧ください。



横浜家具（横浜山手西洋館）を 修復する職人

横浜マイスター

うちだ かつひと

内田 勝人 [洋家具職（横浜家具）]

有限会社蓮華草元町工房代表

プロフィール

22歳からデザイナーとして勤務。家具職人が黙々と仕事をする様子をテレビで見て転職を決める。秦野職業訓練校木工科に通い、27歳で元町の株式会社竹中に入社。独立後、45歳で仲間と蓮華草元町工房を設立。大正天皇のキャビネット修復をはじめ、旧前田邸家具復元、横浜美術館所蔵品、横浜地方気象台所長室、横浜開港記念会館貴賓室、横浜情報文化センター旧貴賓室、カトリック山手教会、横浜山手西洋館などの家具の製作・修理に携わる。また、横浜開港150周年では、市内の小学生150人とベンチを製作するワークショップを開催。

発行：令和3年3月

横浜市経済局雇用労働課

横浜市中区本町6-50-10

045-671-4098

監修：内田 勝人（横浜マイスター）

横浜家具

"Yokohama Furniture"
Origin of Western Furniture in Japan



MADE IN
YOKOHAMA

The Home of a Diplomat
Bluff No.18
Berrick Hall
Ehrismann Residence
Bluff No.234
British House Yokohama
Bluff No.111

City of YOKOHAMA

横浜家具とは



幕末開港期から明治初期にかけて、
居留外国人により持ち込まれた家具の修理を、
日本の木工職人たちが請け負ったことに始まり、
それ以降、横浜で生産されてきた西洋風の家具です。
日本の伝統的な木工技術、道具を使って作られています。

外交官の家

The Home of a Diplomat

1910年にアメリカ人建築家J.M. ガーディナーの設計により、
ニューヨーク総領事やトルコ特命全権大使などを務めた明治
政府の外交官内田定槌氏の邸宅として東京渋谷の南平台に
建てられました。後年、山手イタリア山庭園に移築復原しました。



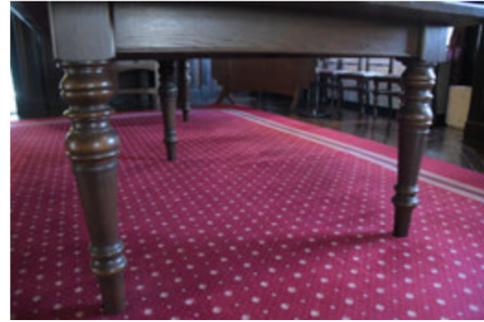
帽子掛兼傘立て



ナラ材を使用。建物、特に玄関ホールと
調子を合わせてデザインし、色調も、建
物の木部の色調に揃えています。



ダイニングテーブル



ナラ材を使用。残っていた脚一本から修復。
挽き物の形も足のデザインに合わせています。



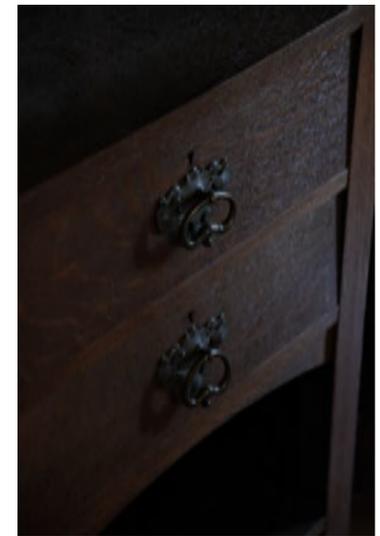
ナラ材を使用。座面には赤のビニール
レザーを用いて作られています。



ダイニングチェア



サイドボード



ナラ材を使用。全体的に分厚い
板材を組み合わせた直線的な構成で、
甲板上の小棚の支え板等には、ハート
型をくり抜くなどアーツ・アンド・
クラフツ^{※1}の思想が見られます。



サイドボード^{ついでに}と
衝立の
共通のモチーフ



ついでに
衝立



ナラ材を使用。食堂家具に合わせた頑健・質朴な
デザイン。上部には食器棚と共通する支輪^{しりん}を取り付け、
アーツ・アンド・クラフツ^{※1}の思想が見られます。

※1 アーツ・アンド・クラフツ・・・19世紀イギリスで展開された美術工芸の改革運動



花台



ナラ材を使用。階段の手摺と同じ透かし彫りが施されています。



配膳棚

ナラ材を使用。甲板の後ろの転び止めのハート形の透かし、脚先のカーブ、各棚板の四隅に付けられた持ち送り風の曲線など、サイドボードと共通した、アーツ・アンド・クラフツ^{※1}の思想が見られます。

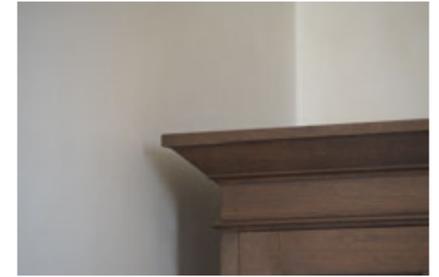


フロアスタンド

ナラ材を使用。4本の板を組み合わせて作られた柱でその中央が空洞になっており電気コードを通してあります。



重ね書棚



ナラ材を使用。支輪部分^{しりん}はサイドボード及び化粧筆筒の上部に合わせて曲線のない形で仕上げています。扉には入れ面^{※2}を施し、腰押し^{※3}の技法が使われています。



横長書棚

ナラ材を使用。デザインは重ね書棚に合わせて作られ、棚の両端は奥行きが浅くなっています。扉には入れ面^{※2}を施し、腰押し^{※3}の技法が使われています。



※2 入れ面・・・入隅（壁など二つの面が出合った所の内側の部分）を飾ること
※3 腰押し・・・入れ面の段差部分を幅寸法だけ押す（接合部を引っ込ませる）こと

ブラフ 18 番館

Bluff No.18

大正末期に山手町 45 番地に建てられたオーストラリアの貿易商パウデン氏の住宅で、そのあとカトリック山手教会の司祭館として使用されてきました。



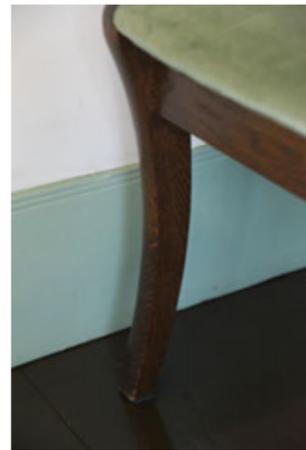
ブラフ 18 番館

Bluff No.18



セツテイ

肘掛部分のアーチが特徴。背もたれ部分の角度を後ろ脚と勾配を変えることで快適な座り心地を実現しています。



カードテーブル

北海道産の樹齢 200 年近い太いナラ材を四つ割りにした 1 本脚のテーブルで、木工旋盤^{※4}で仕上げられています。



ブラフ 18 番館

Bluff No.18

※4 木工旋盤・・・木材を回転させながら様々な形を削り出す機械

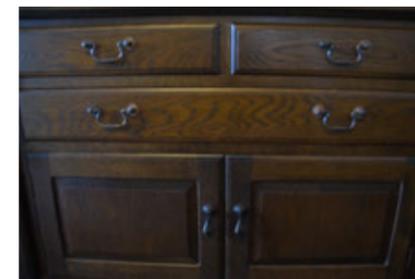
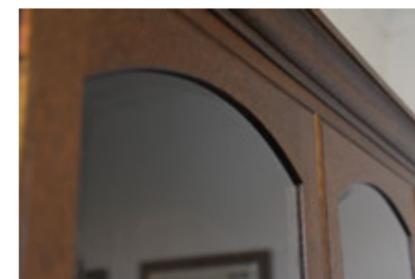


ソファセット

テーブルの脚の角度が外側に1度開いており、無垢板が半円状の曲線で加工されているのが特徴。ソファは無垢の木で作られており、生地はベルギー産のものを使用。



キャビネット



ナラ材を使用。塗装はその他のナラ材家具と同様に砥の粉を塗り乾かしてオイルステインで着色し、シェラックニスを塗った後、ラッカー塗装で仕上げています。代表的な横浜家具らしいデザインです。



面取りをして2重のデザインで加工。正面ふたの内部は便箋、封筒、ペン、クリップ、ピン等の置き場が細かく親切に造られています。



ライティングビューロー

ベリック・ホール

Berrick Hall

1930年にアメリカ人建築家J.H. モーガンの設計により、イギリス人貿易商B.R. ベリック氏の邸宅として建築されました。



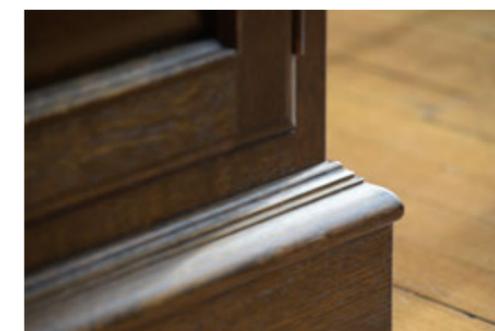
ベリック・ホール

Berrick Hall



横長棚

ナラ材を使用。塗装は砥の粉・オイルステイン・シェラックニス・ラッカー塗装で仕上げています。台輪^{※5}があることで安定感と重厚さが増す横浜家具らしいデザインです。



ベリック・ホール

Berrick Hall



ダイニングテーブル・チェア

ダイニングテーブルは木のレールのエクステンションテーブル（伸長式）。幕板の段や持ち送りのデザインが特徴的。



両袖机

ナラ材を使用。塗装は砥の粉・オイルステイン・シェラックニス・ラッカー塗装で仕上げています。寸法が大きく部屋への搬入可能にするために4分割にし室内での組み立て式にしてあります。





ベッド

脚部をテーバー^{※6}で仕上げています。



箆筒



全体はシンプルで洗練されたデザイン。脚部はテーバー^{※6}で仕上げています。



棚

鍵を閉められることから貴重品の保存等の用途で活用されています。ガラスは面取り加工を施してあります。

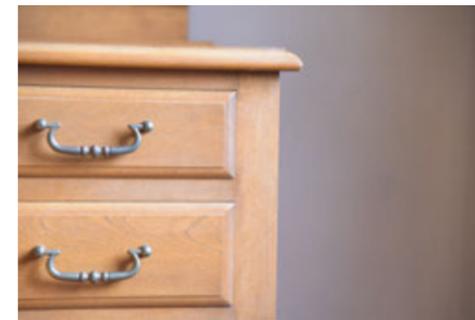


※6 テーバー・・・円錐（えんすい）状かつ先細りになっているデザイン



鏡台

樺材を使用。塗装は砥の粉着色・シェラックニス・ラッカー塗装で仕上げています。デザインは建物の建築家J. H. モーガンを意識して造られています。また脚部は、テーバー^{※6}で仕上げています。



花台

ナラ材を使用。塗装は砥の粉・オイルステイン・シェラックニス・ラッカー塗装で仕上げています。上段を花で飾り、下段に置物をと考え置物を邪魔しないように4本の柱は細めにデザインされています。



鏡

上部の曲線を表現するために旋盤で形を整えた後、2つに分けた上半分を使用しています。また、接着部分には、にかわという動物性の糊を使用しています。

エリスマン邸

チェコ人建築家アントニン・レーモンドの設計により、
1926年に生糸貿易商エリスマン氏の私邸として建築されました。

Ehrismann Residence



エリスマン邸

Ehrismann Residence



ダイニングテーブル・チェア

テーブルは脚部の三角形の添木をアクセントにし、簡潔な
形態が素朴な美しさを見せています。チェアは台形の座と
籠目網かごめあみの籐とうで製作した背もたれなど、直線的で幾何学的な
デザイン。



木部はナラ材を使用し、ラッカー塗装で仕上げています。
肘掛と背もたれに縦なでぞん棧を入れるなど、直線的な形態の
デザイン。



ソファセット



サイドボード



3つの小引出しと開き戸で構成されています。
直線と短形、小さな丸い取手など、単純明快な
形態に仕上げています。



籐家具



籐とうの構成がシンプルで美しいデザイン。

エリスマン邸

Ehrismann Residence

山手 234 番館

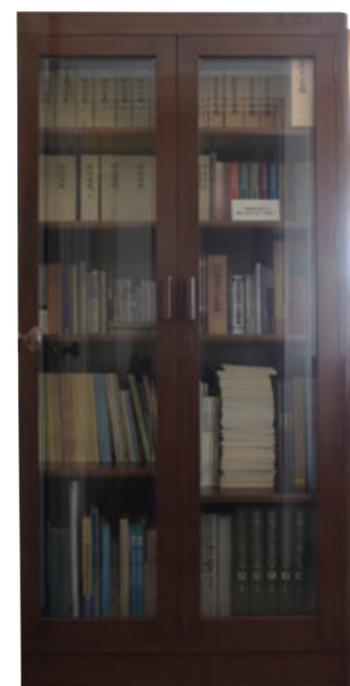
1927年頃に朝香吉蔵の設計により、外国人向けの共同住宅として建築されました。

Bluff No.234



山手
234
番館

Bluff No.234



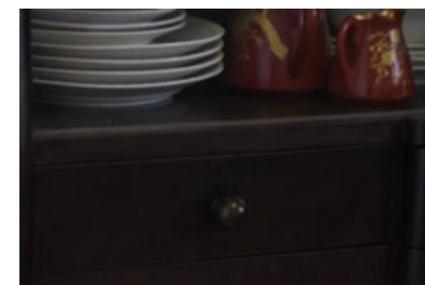
書棚



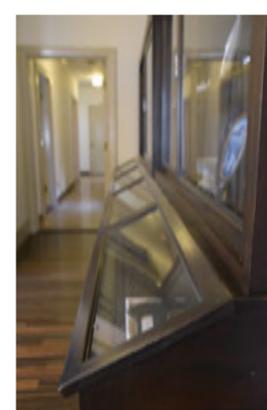
樺材を使用。木の目が密な作りで、直線とわずかな曲線で作り上げたシンプルなデザイン。



食器棚



真樺材を使用。家具の輪郭線にのみ「朝顔面^{あしがめん}」と呼ばれる縁飾りをつけただけのすっきりしたデザイン。



ナラ材の^{まさめび}柾目挽き^{※7}を多用し、入れ面^{※2}や腰押し^{※3}の技法で作った奥行きがあるデザイン。



食器棚

山手
234
番館

Bluff No.234

横浜市イギリス館

British House Yokohama

1937年に上海の大英工部総署の設計により、
英国領事公邸として建築されました。



横浜市イギリス館

British House Yokohama



鏡台

引き出しの中に瓶等を立てやすいように
仕切りを入れています。ベッドのアーチに
合わせて鏡が作られました。



ベッド・ナイトテーブル・ランプ・椅子

樺材を使用。ベッドの板の装飾部分（モールディング）はイギリス流に
加工されています。また、ナイトテーブルの引き出しは仕込み（本体が
中に入る）加工が施されています。



樺材を使用。イギリス等の家具の
デザインをモチーフにして製作。



箆筒

横浜市イギリス館

British House Yokohama



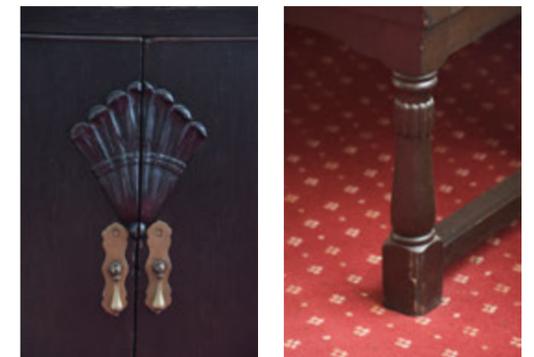
ダイニングテーブル・チェア



着色塗装を施すことを前提としていたため、
マホガニー材と同じような質感が出るラワン材を
使用。ダイニングテーブルはエクステンション
テーブル（伸長式）。



箆筒



着色塗装を施すことを前提としていたため、
マホガニー材と同じような質感が出るラワン材を使用。イギリス等の家具のデザイン
をモチーフにして製作。

山手 111 番館

1926年にアメリカ人建築家J.H. モーガンの設計により、
アメリカ人J.E. ラフィン氏の住宅として建築されました。

Bluff No.111

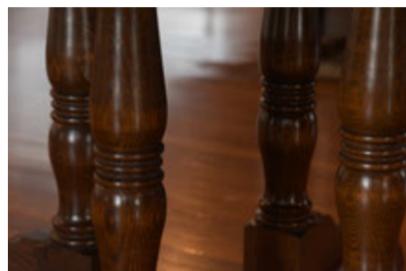


山手
111番館

Bluff No.111



丸テーブル



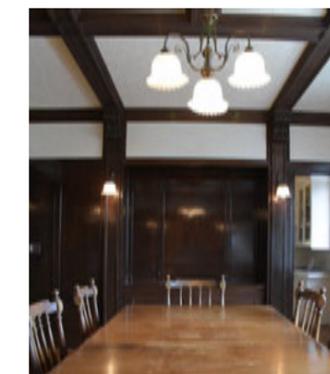
テーブルの側面は木工旋盤^{※4}で加工。脚部は1本脚ではなく、木工旋盤^{※4}で加工された4本が集合体として使われた重厚感のあるデザイン。



花台



ダイニングテーブルと合わせたデザイン。足部分には貫という垂直材間に通す水平材を入れる方法で強度を保っています。



ダイニングテーブル・チェア

ダイニングテーブルはエクステンションテーブル（伸長式）。
チェアの後ろ脚は強度を出すために、背柱と脚部を組み合わせずに1本の無垢材を通してあり、上部の背もたれ部分のみに木工旋盤^{※4}を施す高度な旋盤技術が見られます。



山手
111番館

Bluff No.111